

湖山池よ、再びよみがえれ

②〇 湖山池自然再生協議会

子どもたちと一緒に



周囲十六キロメートル、広大な水田が一夜にして池になったという「湖山長者」の伝説で有名な日本一大きい湖山池。

この湖山池は、水泳や水遊び、また、魚も多く釣りがいたるところで行われるなど、自然に恵まれたきれいな池だった。今では生活排水による汚染や工場排水の影響で



子どもたちと一緒に学ぶ

湖の水は汚れ、湖の底にはへドロがたまり昔の面影はなくなっている。

そんな湖山池をもう一度きれいにしようと、再生に向けて取り組んでいるグループがある。鳥取大学の学生と地域住民を中心にした湖山池自然再生協議会（事務局長 若田泰徳）である。

「湖山池の自然の再生を考えるようになったのは、大学の地域との連携についての授業を受けたからなんです」と若田さん。子どもたちを中心とするネットワークを築き、地域の人たちと連携して何かできないか考えたとき、大学のすぐそばにある湖山池に着目したのだ。まず、若田さんたち大学生は、湖山池の周りにある小学校の子どもたちと一緒に湖山池を知るため、湖山池を学ぼうを企画。



事務局長の若田さん

湖山池の源流調べや漁の体験を行い、湖山池の生き物や生態系などを学んでいった。そして、しだいに失われていく湖山池の自然を目の当たりにしたのだ。「湖山池を守らなければ、自然を取り戻そう!」と若田さんたちの思いは一つに。やがて周辺住民の大人たちを巻き込み、湖山池自然再生協議会の発足へとつながっていった。



地域の連携で泳げる湖山池に

学生、子どもたちをはじめ「石がま漁を伝承する会」や「自治会」からなる協議会は、平成十四年の春に発足。今年から、トンボやホタルが飛び交い、魚が産卵しやすい環境づくりを目指し活動を行っている。この地域を交えた活動が高く評価され、日本都市計

画家協会賞を受賞した。「僕らの活動は、一つのきっかけづくりに過ぎません。湖山池を再生したいという人たちが一緒にになって共に手を取りあっているようにがんばります」と若田さんは決意を語った。

「地域の住民が湖山池の自然のすばらしさを再発見する必要があるのです。湖山池を守らんといいけん!といった強い気持ちがあれば、人から人へ地域から地域へ広がり、地域間の連携が昔泳げた湖山池をよみがえらせると思います」と若田さん。湖山池再生にかける若いパワーを感じた。湖山池で泳ぐことができようになる日も、そう遠くないような気がしてきた。



湖山池再生に向けて議論するメンバーたち